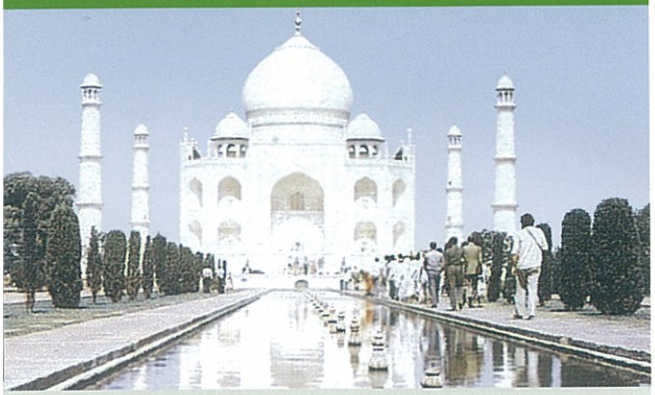
# ヒンディー語専攻

ヒンディー語専攻は、ヒンディー語を習得し、新しい可能性を秘めたインドの社会と文化の現実を、熱く学ぶ意欲を持つ皆さんを歓迎します。



インドのアーグラー市にあるタージ・マハル

インドの人口はついに12億人を突破し、2045年には中国を抜いて世界一になると言われています。これほどのすごいエネルギーをもったこの国について皆さんはどれだけのことを知っているでしょうか。仏陀、ガンディー、カースト制度、ヨーガ、カレー、貧困、核保有国というイメージが定着しているのではないでしょうか。それらは、もちろん一面の事実ですが、現実のインドは、立派に民主主義が働いており、めざましい高度成長を遂げつつあり、とくにハイテク産業の発展はめざましいものがあります。アジアの市場を見るとき、「中国の次はインドだ」といわれるのも無理はありません。伝統的にインドと日本は、仏教という精神文化を通じて交流がありましたが、これからは政治・経済的な関係・交流が重要となるでしょう。

私達ヒンディー語専攻では、トータルなインド文化理解の前提として、もっとも重要な公用語であるヒンディー語の習得を非常に重視しています。最初の1年間は、徹底的に語学の訓練にあてられます。これを武器として、他大学には真似のできないインド研究を目指しているのです。ヒンディー語をマスターすれば、インドの知識の無尽の宝庫が諸君の前に開かれます。ヒンディー語は語順も日本語とよく似ており、文法も簡単で整然としており、発音は少し難しいものもありますが、一語一語はっきり発音してくれるので非常に聞き取りやすい言葉です。世界で一番多く映画が制作されるのはインドであり、その中でもヒンディー語映画は人気があり、世界中に輸出されています。日本でも近頃、インド映画を見る機会が増えてきました。字幕なしでこの言葉が理解できればどんなに楽しいことでしょう。皆さんの憧れるカッコいいスターに会ってヒンディー語で話すというチャンスに恵まれるかもしれません。

厳しい授業でもヒンディー語学習の楽しさは十分満喫してもらえると信じています。優秀な諸君、好奇心旺盛な諸君、ヒンディー語専攻に来たれ!

インドの500ルピー紙幣の裏上と左下の文字がヒンディー語。右下が英語。左のボックス内にその他の15の公用語で500ルピーと書かれている。

「ナマスカール」

# नमस्कार

## 学生の声

2年　金森 恵里奈

私はもともと異文化理解に興味があり、それなら日本と価値観の全然違うインドの言語を勉強しようと思い、ヒンディー語専攻として大学に入りました。入学してからまだ1年半しか経っていませんが、ヒンディー語というインパクトのある言語のおかげで今まででは全く知らなかった世界を見られたり沢山の人との繋がりができ、自分の世界が広がり、とても刺激的で楽しい大学生活を送っております。

大学の授業は1年生ではヒンディー語の文法の基礎、日常会話を学び、現在の2年生は主にインドの神話を読み進めインド人の根本的な考え方にどのようなものが存在しているかを、学んでいます。少人数で授業をするので、先生との距離も近く、なにより知的で面白い先生ばかりです。

授業中にされる先生方の海外での体験談もヒンディー語専攻の授業の魅力のひとつです。休みの日にはインドに限らず、色々な国に行って世界の人が集まる学会に足を運び、研究していらっしゃるので、話す話題も毎回生徒たちにとって驚くような話ばかりです。

その中には、楽しい話ばかりではなく異なる国の人と共に何かをするときの厳しさ辛さも含まれており、これから日本人としてどのように海外の人を接するかという処世術を自分なりに考えさせてくれます。

ヒンディー語勉強したい人、日本に何かしらの窮屈感を感じている人、強くなりたい人、ヒンディー語専攻にぜひお越し下さい。

## 留学体験記

4年　田嶋　勝利

「ヒンディー語」という言語をご存じだろうか？「ナマステ」という挨拶くらいは聞いたことがあるかもしれない。文字を思い浮かべることのできる人はほとんどいないだろう。インドでは８００以上の言語が話され、公用語は２２言語もある。その２２分の１が「ヒンディー語」である。

では、そのヒンディー語が広く話されている「インド」のイメージはどうだろう？カレーは勿論のこと、ターバン、サリー、数学、IT。インドという大国は実に多くの構成要素から成り立っている(皆さんの想像の遥か上を行くほどだ、と断言してもいい！)。１２億を超える人口、ヒンドゥー教やイスラーム教に始まる多くの宗教、そして古い文化と現代文化の交差が織りなす「カオス」の世界…。列挙に暇はないが、インドは無限の可能性を秘めていると言っても過言ではない。

僕はそんなインドのアグラという都市に留学していた。ヒンディー語力の向上はもとより、ヒンディー語を学ぶことで、より近いところでインドの文化に直接触れたかった。Kendriya Hindi Sansthanという語学学校で過ごした９か月間は、ワクワクというよりゾクゾクするような時間(この違いは行けばわかる！)を引き連れ、インド文化を僕に対してけしかけてきた。現実離れした非日常が日常になる不思議な世界だった。

「言語を学ぶ」ことは決して目的ではない。皆さんが「ヒンディー語」を学ぶことは、インドの文化に触れる大きなきっかけであり、武器になる。

आइए हिन्दी सीखें !